MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２２．７．３１　発行元
第 381 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

船のミステリ海外編

第３７８号で『鉄道ミステリ』を取り上げた。今度は『船のミステリ』にしてみた。鉄道よりも歴史が古い乗り物なので、ボート、ヨット、帆船、貨物船、クルーズ船、軍艦…さまざまの取り上げ方をされている。

クリスティ『ナイルに死す』

海外の『船のミステリ』と言うと私の頭に思い浮かぶのはアガサ・クリスティの『ナイルに死す』だろうか。映画の印象が強いのかもしれない。「船」という閉じ込められた空間の中での事件である。ポワロの活躍は…。クリスティ作品の中では私の好きなもののひとつ。

「船」というのは海に浮かぶ密室であり、国を離れての独自の世界である。事件が起きても、警察が直ちに登場できるわけでもなく、時間の経過とともに次の展開に進んでしまうことも考えられる。そういう意味で「雪の山荘」のような本格謎解きミステリを作りやすい土台があると言っても良いだろう。

「乗り物ミステリ」ということになるとＦ・Ｗ・クロフツの出番が多くなる。右には『シグニット号の死』を取り上げたが、他に『英仏海峡の謎』や『ヴォスパー号の遭難』『海の秘密』『船から消えた男』などの作品がある。

第一次・第二次世界大戦関係で船が出てくるものもたくさんある。アリステア・マクリーンの『女王陛下のユリシーズ号』もその代表。

Ｆ・Ｗ・クロフツ『シグニット号の死』

１９３８年の作品。私の手元にあるのは１９８５年の創元推理文庫。シグニット号はテムズ河をはしれるようにした豪華な屋形船。証券業の富豪・アンドルー・ハリスンが独自に設計して作らせたもの。ところが、その船室内でハリソン自身が亡くなっているのが発見された。テーブルの上には塩酸入りのデカンターと大理石が入ったボウル置かれていた。塩酸をかけると二酸化炭素が発生する。中毒死。自殺？？　いや、強欲なハリソンが自殺するはずはない。そこで登場するのがロンドン警視庁のフレンチ警部。船員、会社、家族関係…たくさんいる関係者のアリバイ調べをしていくと…。

ニコラス・ブレイク『メリー・ウィドウの航海』

１９５９年イギリス。ハヤカワ・ミステリ文庫。私立探偵のナイジェル・ストレンジウェイズは恋人のクレアとともにエーゲ海周遊の観光旅行に参加。船に一緒に乗り合わせたのは個性的な人達。金持ちの未亡人メリッサ。その妹でノイローゼ気味のアイアンシー。ギリシャ文学研究家のジェレミー。精神分析学に凝っている少女のプリムローズ…。それらの乗客の一人がプールで水死体となり、アイアンシーは行方不明になる。事件の解決はナイジェルの頭脳にかかってくることになる。そして、容疑者を一堂に集めての推理が始まる。英国本格ミステリの流れをしっかり受け継いだ作品と言えるだろう。

ロバート・Ｌ・フィッシュ『お熱い殺人』

１９７１年イギリス。ハヤカワ・ミステリ文庫。フィッシュによる『殺人同盟』シリーズの二冊目。前作『懐かしい殺人』で大金を得ることが出来たミステリ作家クラブ創設者の三人。いよいよ豪華船サンダランド号で船の旅に出発。ところが三人のお金目当てにちょっかいをかけてきた詐欺師夫妻の奥さんの方が浴室で死んでいるのが見つかる事態に。犯人として疑われることになったのは作家クラブの一人・ブリッグス氏だった。進退窮まった三人は弁護士・パーシヴァル卿を頼ることに…。フィッシュが得意とするユーモアミステリ。この後の第三作は『友情ある殺人』となる。

Ｅ・Ｄ・ビガーズ『チャーリー・チャンの活躍』

１９３０年の作品。創元推理文庫。アール・デル・ビガーズはアメリカの作家。『チャーリー・チャン』シリーズの第一作『鍵のない家』は１９２５年に出ている。この頃にヴァン・ダインなども活躍を始めて、ビガーズは影に隠されてしまい、目立たない存在になった。でも、私はミステリを読み始めた最初の段階でこの作品の魅力に惹かれたのだった。

ロフトン世界周遊旅行団。クルーズ船を使っての世界一周ではない。十七人の小さなグループで汽船や鉄道を乗り継いで世界各地を回る形の旅行団。したがって最初の殺人事件もロンドンのホテルに宿泊している時に発生。アメリカの老富豪が絞殺されていた。捜査に当たるのはロンドン警視庁のダフ上席警部。しかし、旅行団は出発し、パリ、南フランス、イタリアと移動していく。その船旅の中で、更に犠牲者が出てくる。事件は未解決のまま、とうとう最後はハワイ警察のチャーリー・チャン警部に引き継がれることになった。チャン警部は警句が得意で、忍耐強い。本格ミステリとしてのしっかりした構造を持った古典的な名作である。